

10/17 (日) 16:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

2021 J3 ■順位表■第22節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）
（注：#印は消化試合が
数字が多い）

1	熊本	42p	+16	31	15	H●
1#2	宮崎	40p	+10	31	21	HO
3	富山	38p	+10	32	22	A●
4	岩手	37p	+9	29	20	AO
1#5	福島	36p	+8	31	23	AO H●
6	岐阜	32p	+4	26	22	---
7	鹿児島	29p	+1	25	24	HO A●
8	長野	26p	+7	25	18	A●
9	YS横浜	25p	-4	20	24	H● AO
10	藤枝	23p	+1	31	30	AO
11	八戸	23p	-12	19	31	H△
1#12	沼津	21p	-8	24	32	HO
1#13	讃岐	18p	-14	17	31	HO A△
1#14	鳥取	17p	-21	20	41	AO H●
1#15	今治	16p	-7	20	27	A● HO

次回HomeGame

第24節 vs.長野パルセイロ
10/24 (日) 14:00
@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしやませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

today's guest : いわてグルージャ盛岡

2020 J3 11勝9分14敗 勝ち点42:11位

直近の対決と結果

2021/05/16
J3 - 8節@夢スタ

岩手 0-2 岐阜

川西翔太, 村田透馬 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜		いわてグルージャ盛岡	
2021/10/10 J3 - 22節@ピカスタ 讃岐 0-0 岐阜		2021/10/09 J3 - 22節@いわスタ 岩手 2-1 鳥取	
2021/10/02 J3 - 21節@長良川 岐阜 2-1 今治		2021/09/26 J3 - 20節@夢スタ 今治 0-1 岩手	
2021/09/25 J3 - 20節@白波スタ 鹿児島 1-0 岐阜		2021/09/19 J3 - 19節@いわスタ 岩手 0-1 宮崎	

●2021年J3リーグ後半戦、厳しい戦いが続くFC岐阜。10/2(土)第21節・ホーム今治戦は、序盤から今治が攻勢に出るものの、前半28分にCKを#10川西翔太が合わせて岐阜が先制。しかしその後も今治の攻勢は続き、後半79分にPKを得て同点に。あわや逆転されるかという状況だったが、試合終了直前に再び#10川西のゴールが決勝点となり、岐阜が2-1で勝利。続く10/10(日)第22節・アウェイ讃岐戦では、連勝を目指したものの攻撃が噛み合わず、0-0での悔しい引き分けに終わってしまった。

この2試合を1勝1分としたFC岐阜。順位は6位と変化はないが、連勝できなかったため首位・熊本との勝ち点差は10、2位・宮崎との勝ち点差は8になり、さらに引き離された。今シーズンは残り8試合。上位チームとは、5位・福島を除けば直接対決を残していることもあり、FC岐阜のJ2昇格の可能性はまだわずかに残されている。しかし、残り8試合を(上位チームとの対決をすべて制して)全勝したとしても、他の上位チームも勝ち続ける限りは、岐阜が追いつくことはできない。本当に苦しい状況だが、しかし、可能性がゼロになるまでは決して諦めずに、この「背水の陣」での戦いを最後まで勝ち続けるしか無い。まずは目の前のこの一戦、これを勝たなくては次への展望も開けない。今日も最後まで、チーム全員がひたむきに走り抜いて、自分や仲間を信じてプレーし、そしてゴールを奪って勝利する姿を、このホーム長良川で僕らFC岐阜サポーターに見せて欲しい。また、今季の選手登録期限の10/1(金)に、今年7月に横浜FCを退団していた#37カルフィン・ヨン・ア・ピンが加入、選手補強は(原則として)最後となった。このメンバーで、チーム一丸となって戦い抜いて欲しい。

さて、今節の対戦相手はいわてグルージャ盛岡だ。フロント・チーム共に体制を刷新して臨んだ昨季は、しかし序盤戦で敗戦を重ねたことが影響し、シーズン後半戦の成績では勝ち越したが最終順位は11位。秋田豊監督2年目体制の元で更なる飛躍を目指した今季は、やはりシーズン前半戦は若干つまづいて7位で折り返したが、後半戦に入るとチーム状態が好調で5勝1敗、順位を4位に上げている。岩手はJ2ライセンスが交付されているため、J2昇格への意気込み・勝利への執念も非常に大きいだらう。しかし先述したように、この上位直接対決に勝たなくてはFC岐阜の今季目標は達成できない。岩手との対戦成績は、2勝1分・7得点1失点と岐阜に有利だ。昨年のホーム対戦・8/8(土)第9節は1-1での引き分け、そして前対戦の5/16(日)アウェイ第8節は、前半に挙げた#10川西翔太と#7村田透馬のゴールを守り切って2-0で岐阜が勝利している。もちろん、現在は好調を維持している上位・岩手との試合になることから、当然簡単な対戦相手ではないが、前対戦の成功体験を、ここホーム長良川でも是が非でも再現して欲しい。

岩手で最も警戒すべき選手には、#11ブレンネルを挙げる。ゴール数こそ4点だが、この強靱なフィジカルを誇る1トップにボールを収めつつ、ゴールを狙うのが岩手の攻撃パターンだ。したがって、セカンドボールを狙う4得点の#13色摩雄貴と3得点の#15加々美登生の2シャドーにも注意が必要だ。そして、ベテラン#17中村太亮の左足から放たれる高精度のボールは岩手の攻撃の起点であり、また#17中村自身も5得点を挙げている。これら岩手の攻撃陣を抑えるために、岐阜の選手たちには常に集中して素早く激しいチェックを行い、ボールを奪うための動きが求められる。また、岩手にはFC東京から育成型期限付き移籍にて、世代別代表GKにも選ばれている#41野澤大志ブランドンが8月に加入し、その堅守も岩手の好調の一因だ。一方の岐阜は、後半戦6試合で5得点という決定力不足の攻撃が活性化するかどうかが勝利の鍵を握っている。リーグ得点トップ11点の#10川西をはじめ、攻撃陣の奮起に期待したい。

ようやく、新型コロナ「第5波」による『緊急事態宣言』そして県独自の『時短要請等』の措置も解除された岐阜県内。Jリーグ全体でスタジアムでの行動制限の緩和が検討されているが、今節もまだ、感染防止措置の徹底が求められるホーム長良川。今節も、声を出して選手を鼓舞したい気持ちをぐっと堪えつつ、選手たちの後押しをしよう。タオマフやゲーフラなどの掲出(振るのは禁止)でスタジアムを緑に染め、(声は絶対にいさずに)拍手や鳴り物の音をスタジアムに響かせよう。

(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第21節】岐阜 2-1 今治

●『勝ちに不思議の勝ちあり』。故・野村克也氏の引用で有名になったこの言葉を、試合終了の笛が鳴った時に思い起こしたのは僕だけでは無いだろう…というか、この『岐大通』でも他のみなさんが引用している気がする（苦笑）。勝ち点で辛うじて最下位を逃れていた今治は、なんと今季2回目の監督交代を決断。そして初采配となるこの試合で、試合序盤から勢いを持っていたのは、いわゆる“監督交替ブースト”が効いていた、アウェイ今治の方だった。岐阜は#30 キム・ホが今季2試合目のスタメン入りした一方、#42 柏木陽介はベンチ外。そして、この試合もまた、ボールを奪ってからの切り替え、攻撃に（非常に残念ながら）全く精彩が見られない。ボールの精度が悪く、味方に繋がらずに再奪取され、守備に回る場面が続く。この試合では、そんなにスタンドから溜息も出なかったと思うんだけど（苦笑）、それでも岐阜の選手たちの思い切ったプレーは発揮されない。そして、スローインで簡単にボールを相手に渡してしまう場面が何度もあるのは、本当にいただけない。そもそも、サイドでボールを繋ぐ戦術を選択していて、だから当然、敵味方がサイドに集まる場面が多くなるんだから、スローインも多くなるのは当然な訳で。そしてスローインは手で投げて、しかもオフサイドが適用されないんだから、サイドラインを縦に突破する戦術のひとつとして、しっかり練習しておくべきだと僕は思うんだけど…（溜息）。残念ながら岐阜には得点の匂いが全くしなかったんだけど、それでもセットプレーなら獲れるという典型例が出ましたね（苦笑）。前半28分に、#8 中島賢星の蹴ったファーサイドへのCKに、どフリーで待っていた#10 川西翔太が蹴り込んで先制点…で、普段だったら僕も大喜びするんですが、あの場面って今治の守備陣がマーク確認をミスしたのか、勝手に#10 川西のマークから離れてましたよね（苦笑）。前半のシュートは、この1本のみ。対する今治は8本。まあ、シュートは枠内に飛ばすのが大切で、数撃ちゃいいってモンでないのは分かってるんですが（苦笑）。

後半開始前に、岐阜は選手交替をして戦術の修正を図るけれど、それでも今治に試合の流れを捕まれてしまう展開。押し込まれ続けて、シュートを撃たれ続けて、クロスバーには2回助けられたかな？（冷や汗）だけどゴール前に何度もボールが入れば、事故だって起きる訳で、#17 藤谷匠が遅れて競った交錯プレーでPK献上&イエローそして同点に。まあ、脳震盪で倒れた今治の選手が無事だったのが不幸中の幸いでした。そしてさらに今治に攻め立てられて岐阜は防戦一方。時間は過ぎてゆき追加タイム突入。このままでは引き分けに終わるか逆転されるかも…と暗雲立ちこめていた後半90+8分、右サイドを駆け上がった#19 窪田稜が送ったボールを相手DFが跳ね返せず、ゴール前に走り込んでいた#10 川西の目の前に。相手GKとの交錯プレーになったけれど、GKが弾いてボールに回転がかかって、その回転の勢いでゴールに転がって行って…ええ、どんな泥臭い形でもゴールに入れば1点ですよ、よく知ってます。だけど…この試合の岐阜のシュート数は2本、今治は20本。こんなのって…いいの？（苦笑）もちろん、この状況下では勝利以外の結果は僕だって求めていない。試合の内容が伴っていきなかつたって、勝てればそれでいい。でも、僕は15年ほど岐阜サポやっていますが、ここまで内容が“皆無”に近い試合で、こんな風に勝利を手にした試合は、はじめての経験かもしれないです（苦笑）。勝って嬉しいのと、下位・今治を相手にこんな勝ち方しかできなかったという事実とで、どういう感情表現をしたら良いのか分からなくなりました。（ささたく）

●A Tが8分もある試合の、その8分が過ぎ去ろうとした瞬間の決勝ゴール。今までなら、両手を突き上げ、体裁かなぐり捨てて雄叫びを上げる状況なのに、出てきたのは哄笑、嘖き出し笑いだった。ただ、ただ、笑うことしか出来なかったよ。現地で見たら違っただろうか？

いったい、何を見せられたんだ？長良川。『長良川劇場』といえば聞こえはいいけどさ。

スタッツのシュート数・2：20が示す通り、いや、数字を確認するまでもなく、試合的には今治のモノ。アウェイの夢スタでは完敗。長良川では神様の気紛れによる勝利。劇的すぎるね。いや、冗談抜きで、この勝利は『今季最後の、サッカーの神様の救いの手』だったとしか思えない。バーとポストが一本ずつ。マツタクの正面は何本あった？で、今治が吹かしたシュートも数知れず。神様のご機嫌を損ねたとしか思えない今治の敗戦。無事に帰れたかな？初めて長良川に遠征して来た今治サポさん達。辛すぎるよね……。

しかし、翔太が蹴ってからラインを越えるまでの時間の長さときたら、まったく（苦笑）。前半は、唯一のCKと唯一のシュートで先制。後半は、98分に稜の初アシストと、この試合2本目のシュート、それも、あわやオウンゴール判定か？みたいなシュートでのサヨナラ勝ち。全く、なんて試合をしてくれやがる。いったい、どっちが6位で、どっちが14位なんだか。今治が監督交替したばかりで、前節から半分近く選手が替わった状態じゃなきゃ負けてた。連携ができてない今治でなきゃ、リーグ得点ランキングトップのウチのエースを、CKでどフリーにするはずなかつただろうなあ。それとも、素直にキングを褒めるべきか？そういう状況の今治が守備の連携、約束事に不備があるのはやむを得ないが、ずーっと同じ監督、ほぼ同じメンバーでやってきたチームの守備が形を成してないように見えるのは、いったい、どうしてなんだろう？ボクが眼鏡を替えるべきなのかな？

ただ、ね。現地組は爆発してたね。あたりまえだよな、渴望してた勝利だもん。いつ以来だよ？6月末の鹿兒島戦か？長良川で勝ったのは。こんな内容の試合でも耐え続け、絶えることなく、クラップを届けてたもん。ホントにスゴイよ、現地組。心からの敬意を表します。

試合後にトラメガ握った安間さんの気持ちはわからんでもないし、言ってることも理解できるが、今なのか、ソレ？とは思。レオミは負けた後に来てくれたけど。アウェイでのキツツイ逆転負けの後に。もちろん、監督と選手じゃ立場が違うし、言えないこともたくさんあるのはわかってるつもりなんだけど。「応援なんかしなきゃよかった」と思ったことは一度もないけど、監督が言ってた「応援してよかった」は結果のことだと思うので、残りの試合を楽しみにしています。次節はアウェイ讃岐。今節の結果次第だが、またまたブービーか、ブービー・メーカーとの試合。しかも、監督はゼムさん。いや、ますます、目が離せないね、コレは。たまらんね（苦笑）。（ぐん）

●よく、勝った試合で「勝っただけ」「勝ち点3を手にしただけ」という形容をすることがあるけれど、今後はその表現は（岐阜に関しては）封印しなくては。少なくとも、ぼくは封印だ。だって、ホントに「勝っただけ」「勝ち点3を手にしただけ」の試合を観てしまったのだから。

誤解とか脊髄反射とかはしないでほしいのだけど、「勝った」「勝ち点3を得た」ことはまったく否定していない。ぼくも長良川で試合を観ていてめちゃくちゃ喜んだ。その夜は玉宮まで呑みにも行った。「勝った」「勝ち点3を得た」他に「何もない」と言いたいのだ。チーム・スタッフがこの試合をポジティブに語っているテキストもあるようだが、観客をナメくさるのも大概にしてください。

サッカー観戦の数は結構こなしていると思う（この試合が通算1959試合目だ）が、それでもこんな試合展開は記憶にない。シュート数が2対20、CK数は1対11、まるで県リーグのアマチュアチームとJ1チームが天皇杯で戦ったかのようなスタッツで、圧倒的に劣勢の方が勝ってしまうなんて。しかも、最初のシュートがラッキーパンチのように入った先制点をベタベタに守り倒して1-0で逃げ切った試合でもなく、1-1から90+8分に2本目のシュートが決まっただけの勝利だなんて。パチスロで言うところのラスト3枚のコインでロングフリーズを引

いた、宝くじで言うと財布の中の最後の100円でスクラッチくじを引いたら1等だった、など。喩えはいろいろ出来るけど、共通なのは「勝つはずがない」展開だったということ。川西の2本目のシュートが強い順回転でゴール内に転がった（あれが逆回転だったら今治GKは倒れてみながらもキャッチ出来ただろう）時には、アドレナリン制御バルブが壊れて全開放になったような気分になった。試合終了の瞬間には指が震えた。圧倒的なカタルシスを味わった。でも、試合が終わってしばらくしてアドレナリンのバルブを交換修理してしまうと、ぼくの中に残ったのは「なんで勝てたのか、からっきしわからん」という呆けた感想だけだった。

本当に、試合内容的には岐阜が勝つ理由などどこにもなかった。藁山の中から針を見つけるように探してみると、疑問に思う選手交代がなかったことぐらいか。先制点はCKの際に今治DFが全員ニアに釣られてファーに残った川西は特段変わった動きもしてないのにフリーで合わせられたものだが、あれだって岐阜の勝因というより今治の敗因だ。

今治側には他にも負けた理由があるかもしれない。監督が替わった最初の試合で新しくスタメンで出た選手も多く、セットプレーでの守備の約束事が詰められてなかった。6月の今治ホームの試合では岐阜の守備をぐっちゃぐっちゃにしてくれた有間が負傷でいなかった。前半は左サイドからいいチャンス砲台になっていた梁賢柱を後半から下げた。それについては岐阜の右WBがレレウだったことも大きかった。レレウはちゃんと戻ってくれるからね。いつもの主戦の右WBだったら梁賢柱にはもっと自由にやらせてしまった気がする。まあ、でもどんなに理由を探し出そうか、出てくる答はやっぱり「勝てるはずのない試合だった」というだけだ。そして、そんな試合で勝ち点3を得たとしても、「勝てるはずのない試合だった」という事実は1オングストロームも動かない。もし岐阜が、万が一、来季からJ2に昇格出来たとしても、その理由は「この試合をモノにした」ことではないはずだ（トリガーにはなれるかもしれないが）。「勝てるはずのない試合」で勝っただけなのだから、この試合から何かを学んだところで勝てるようになるわけではないのだ。（吉田鎊造）

【第22節】讃岐0-0 岐阜

●今治戦での“棚ぼた”的な勝利を意味あるものにするためにも、連勝がマストな岐阜。下位の讃岐を相手にしっかりと勝ちきって、勢いをつけたいところ……だったんですけどねえ（溜息）。

10月だというのに、アウェイの地・ピカスタは日射しも強く、スタンドにいても熱射病になるかと思うぐらいに暑かった。今季これまで逆転勝利の経験が無い岐阜としては、先制点を許したくないという気持ちも働いて、様子見のスタートにも理由があったと言えるかもしれない。だけど、勝利し続けないと昇格の望みが断たれる状況で、得失点差だって重要になってくる状況で、しかも下位の讃岐相手に、選択する戦術だったんだろうかと、僕は疑問に思う。それと、『勝った際のメンバーはいじらない』と言うのは確かにサッカーの定石だけど、前の試合で全く機能していなかったスタメン布陣を、（累積警告で出場停止となった#17藤谷匠の他は）そのまま使うってのは、どうなのよ……（苦笑）だから、この試合でも残念ながらやっぱり、攻撃のボールが繋がらない。それと、左利きの右サイド（あるいはその逆）というのが現代サッカーで流行してるのは知ってるけれど、#7村田透馬と#11レレウは、元のサイドで使った方が良さそうな気が……。それと、サイドを裏に抜けてボールを受けるのでは無く、ボールが出るのを待ってから動き出してるので、相手に対応されて突破ができない場面が何度も。僕には、岐阜の選手たちは味方同士の動き方を探りながらプレーしていて、だからシーズン後半になってもプレー速度が遅くてミスも多いようにしか見えなかった。

そして、途中から『あれ？讃岐の方がデザインされた攻撃してないか？』と感じた僕は、とても大きな疑問に突き当たってしまったのです。『讃岐のゼムノビッチ監督は、昨季の途中まで岐阜を指揮していた監督で、今季の4月から讃岐を率いている。この間にゼム監督の指導力が、ウチでの失敗を糧に（苦笑）劇的に変化・向上したのではない限り、ゼム監督の采配は岐阜の選手・スタッフも分かっているはずだ。選手の人件費だって岐阜の方が高いはずだし、練習環境だってそれほど変わらないはず。なのに、何故讃岐は昨年の岐阜とは異なるサッカーを展開していて、ウチは相変わらずボールが繋がらず選手個人に頼ったサッカーをしているんだ？』と。振り返ってみると、現在の熊本を指揮する大木監督も、岐阜で指揮していた時とは異なるサッカーをしているように感じる。2人の共通項は『岐阜で久しぶりにJリーグチームの指揮を執った』なので、岐阜をダシに使われたという可能性も残されているけれど（苦笑）、そうでないとするならば、監督の指導・戦術などではない、もっと大きな問題点を僕らのクラブは抱えているのではないかと……そんな不安に陥ったのです。コーチングスタッフの監督との相性や質？それとも選手の獲得基準？あるいはやっぱり岐阜の練習環境が悪いだけなのか？それとも僕らサポーターに問題があるのか？もしかして、これが“クラブの歴史”の違っていてヤツなのか？などなど……ピッチでプレーが噛み合わずに苦しみながら、ゴールが遠いウチの選手たちを応援しながら、その『何故？』は解消されず、試合は終わってしまいました。ただ、とりあえず僕が思ったのは、『使えるのであれば、もっとグラウンド全体を使ったロングボールのプレー練習をしましょうよ！』ということかなあ（苦笑）。繋がらない、そして前線で奪い返せないボールを敵陣に無策に何度も放り込むのをスタンドで黙って見させられるのは、正直堪えます。

あまりに痛すぎるドロー。前半のゴールネットを揺らしたセットプレーで得点が認められれば良かったけれど、判定はファール。今治戦と同様に、試合終了直前には大きなチャンスがあったけれど、今回は決められず。これでは……と思うような、そんな試合内容と結果だった。だけど、まだ諦める訳にはいかない。『諦めたらそこでシーズン終了』だ。だから僕は諦めない。

（ささたく）

●翔太のシュートは、ゴールネットを揺らす前に相手GKの手に収まってしまい、前節の再現とはならず。手痛い、本当に痛いドロー。はっきり言って、敗戦に等しい引き分けだけどね。いや、もっと厳しい言い方でもいいかもね。言わないでおくけど。

試合終了の笛が鳴らされた時に浮かんだのは、「前節のツケを払わされたのかもな。」と。今治戦について、「サッカーの神様が最後に差し伸べてくれた救いの手」と書いたんだけど、さすがにアレはやり過ぎた、とか思ったんでしょうね、神様も。「貸しを返してもらおうワ。」というのが、キャプテンの『認められなかったゴール』だったような気がします。ファウルを取られたヤツね。いや、そんなことを書いても詮なきことですが（苦笑）。

前節に引き続き、シーズン途中で監督交替したクラブより劣る試合内容に、本来なら夢も希望も失くすところなのに、なぜだか、数字上の可能性は残っている。全てが灰塵に期したワケじゃない。希望は、未だ潰えていない。もちろん、条件的には非常に厳しい。いっそ、ひと思いに楽にしてくれ……と言いたくなるぐらいのキツイ設定なうえに他力本願が不可欠。ホント、希望ってのは、時に残酷だねえ。クリオネがご飯を食べる時みたいな顔してるような気がするよ（サブイボ）。それでもね、ようやく解禁されたアウェイに駆けつけ、着席応援を余儀なくされる中で、長良川と変わらない応援を届けてくれた現地組。ただ、ただ、感謝。本当にありがとう！（ぐん、）